

# 夜間の山笠競演を初開催

10月7日-8日

## 赤池統一秋祭り

待

ちわびて迎えた秋は、祭り人の身も心も熱くさせる。2年に一度の赤池統一秋祭りが10月7日・8日の2日間、開かれた。従来より少なめの5基が参加。間隔が長いので、準備に手こずる場面もあるが、そんな困難を乗り越える度に参加者の結束も深まり、その分、達成感も高い催しとなっている。

この統一秋祭りの「統一」の二文字には深い思いが込められている。昭和40年代まで地区や氏神ごとに行われ、時期もまちまちだった祭りが、関係者の血のにじむような苦労によって統一されたのだ。昭和50年に正式発足した「お祭り対策協議会」は、町内の活性化と一体感を高める目的で意志を統一。それまで不可能と言われてきた統一を現実のものにしたという画期的な経緯がある。

そんな歴史を含みながら、赤池統一秋祭りは、今回初めて「山笠競演会」の夜間開催に挑戦した。赤池の山笠は小回りも効き、スピード感あふれる取り回しが自慢。電飾きらめく山笠が会場狭しと躍動し、観衆を魅了した。



【山笠競演会】10月7日に福智町中央公民館前で開催。各地区シャギリ隊による「炭坑節総踊り」の後、生力・第十区・第九区・赤池山笠会の順に4基が競演した。従来は2日目の午前中に行っていたが、今年初めて夜の開催が実現。試行錯誤の末に飾り付けた電飾も最後まで点灯し続け、無事成功に終わった。



【十八支所】急きょ前夜に作成して組んだという、手作りの破風が個性的な山笠。



【第九区】町部をはじめとする広域の財産区、広域の背中には「九」の文字が。



【赤池山笠会】青年有志たちによる山笠、電線よけの櫓を要するほどの高さを誇る。

## 二年ぶり、町を練る



【生力】新興住宅地の生力NT。昇竜の法被に向かって、青い馬連が美しく流れる。



【第十区】赤池の秋祭りで最も歴史深い地域。ここからお祭り男が多数生まれた。

